

【事例 15】O さん（男性 20 代後半 鹿児島大学卒、鹿児島市にある建設会社でデザイナー）³³

O さんは七年前に来日し、鹿児島大学を卒業した後、現在鹿児島市にある建設会社でデザイナーの仕事をしている。現在は手帳を使っていないが、大学二年生のときは手帳を使っていたという。手帳を使い始めた理由について、「就活ですよ、各社は書類審査、筆記、面接と何段階もあるので、スケジュール管理をしないと本当に無理です」と語った。

O さんは手帳を日程管理に活用していたこと以外に、日記もつけていたという。また重要な用事を目立つようにするために、赤ペンを使っていたという。

手帳を使った後は保管しているとのことだった。

【事例 16】P さん（男性 20 代前半 鹿児島大学農学部入学予定）³⁴

P さんは四ヶ月前に来日し、2015 年 4 月に鹿児島大学の農学部に入学予定である。手帳を使用開始したのは日本に来て半月の頃だという。手帳を使い始めた理由について聞いてみると、「もともと記憶力はそんなによくなくて、中国でも電子カレンダーを使ってました。手書きにしたかったですけど、中国では手帳を使う人いなくてさ、自分一人だけ手書きにするなら、なんか変な目で見られそうですね」と答えた。

手帳の使い方は日程管理以外に、週間計画も書いているそうである。また「もっと頑張れ」「ここはこうすべきだ」のように自分を励ますような言葉も書いているという。

使った後は保管するつもりとのことであった。

【事例 17】Q さん（女性 20 代前半 鹿児島大学法文学部研究生）³⁵

Q さんは 2010 年に来日し、鹿児島国際大学を卒業後に、2015 年 2 月 11 日現在、鹿児島大学法文学部の研究生である。一年の研究生を経てから、大学院に入る予定である。彼女は手帳を使い始めたのは日本に来て半年後だという。理由は手帳が便利だと思ったからだという。また「貯金をしたくて、手帳を使って家計簿をつけてました」と家計簿を使用開始の理由の一つであるとして挙げている。

彼女の手帳の使い方には日程管理以外に、前述のように家計簿もある。また「自分のその時その時の心境や気持ちを手帳に書いてます」と心境や気持ちを文字化する使い方もしている。「ストレス発散ですか」と尋ねてみると、「そのときもありますけど、うれしいときとか、さびしい時とか、とにかく言葉にしたいです」と答えた。スタンプを貼ったりするようなアクセサリーもしているとのことであった。

手帳を使ったあとは保管しているという。

³³ 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日（鹿児島大学教育学部の食堂）。

³⁴ 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日（鹿児島大学教育学部の食堂）。

³⁵ 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日（鹿児島大学教育学部の食堂）。

【事例 18】R さん（女性 20 代前半 鹿児島大学工学部三年生）³⁶

R さんは 2011 年に来日し、調査時点では工学部の三年生である。高校は中国だったが、日本との連携学校とのことである。そのため、手帳は高校時代から使っていたという。「学校の売店で売ってましたよ。クラスの半分以上の人が使ってました」。日本との連携学校の影響が大きかったと考えられる。

R さんの手帳の使い方は、日程、家計簿、日記、励ます言葉と「怒りの発散として手帳につぶやき書いてます」のようなつぶやきである。また日程も色ペンでつけているとのことであった。

手帳を使った後は保管するとのことであった。

【事例 19】S さん（女性 20 代前半 鹿児島大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程一年生）³⁷

S さんは 2009 年に来日し、鹿児島国際大学卒業後、調査時点では鹿児島大学の人文社会科学研究科博士前期課程の一年生である。手帳を使い始めたのは大学一年生の時だったという。使用開始の理由について、「ただ周りの日本人みんな使ってるし、毎年、年末年始、書店に並べられてるし、ついつい買ってしまおう」と語った。

手帳に日程を書いているが、「でもつねに持ち歩きしてないから、日程でもつけてる時とつけてない時がある」という。また誕生日のメモや授業のメモも書いているという。

手帳を使った後は保管するとのことであった。

【事例 20】T さん（男性 20 代前半 鹿児島大学大学院農学研究科博士前期課程一年生）³⁸

T さんは 2009 年に来日し、調査時点では農学研究科の博士前期課程の一年生である。第一回目の調査（2014 年 9 月 19 日）の時は手帳を毎年購入していたが、使ってはいなかった。その理由を聞いてみると、「周りの人が皆使ってるから、使うかもしれないと思ってさ、でも結局ほとんど書く必要がなくて、頭で覚えてるの」と答えた。2015 年に偶然に T さんが手帳を使っているのを見かけ、第二回目の調査（2015 年 5 月 16 日）を行った。手帳を使い始めたのは大学院二年生になってからだという。理由は二年生になってから、発表の回数が増えて、その発表の順番を記録するためだという。

手帳の使い方は日程以外に、計画も書いているという。

手帳を使った後の処理の仕方は興味深い。「一年間手帳使い終わったら、一枚一枚切り離して、機械を使って粉碎して、粉々になった手帳をごみ箱に入れるけど」。粉々にする意味について聞いてみると、「過去の悪いことを忘れ、成功したことに自惚れないっていう意味なの」と答えた。

³⁶ 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日（鹿児島大学教育学部の食堂）。

³⁷ 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日（鹿児島大学教育学部の食堂）。

³⁸ 調査時期及び場所：2014 年 9 月 19 日（インターネット経由）、2015 年 5 月 16 日（インターネット経由）。

以下の表は調査対象者別に手帳の使い方を簡潔に表示したものである（表 3-2）。

表 3-2 調査対象者の活用例

調査対象者	活用例
A さん	日程、メモ、名刺入れ、伝言
B さん	アクセサリ、日程、回顧録
C さん	日記、日程、写真アルバムの機能
D さん	日程
E さん	日程
F さん	アクセサリ（スタンプ）、日程、趣味のメモ（洋服、雑貨の切り貼り）
G さん	日程
H さん	アクセサリ（表紙）、日程、回顧録（写真アルバムの機能）
I さん	日程（色ペン）、アクセサリ（絵）
J さん	日程、メモ、回顧録
K さん	日程、アクセサリ（シール、スタンプ、絵）
L さん	日程（色ペン）、表紙に明確な目標の一言、励ます言葉、好きな言葉の採録、回顧録（写真アルバムの機能）
M さん	日程、ピン（大事なところにとめる）、就活ガイドブック
N さん	日程（色ペン）、回顧録、週間計画、好きな言葉の採録、アクセサリ（絵、スタンプ）
O さん	日程（色ペン（赤だけ））、日記
P さん	日程、週間計画、励ます言葉
Q さん	日程、家計簿、心境や気持ちを書く、アクセサリ（スタンプ）
R さん	日程（色ペン）、家計簿、日記、励ます言葉、つぶやき（怒りの発散）
S さん	日程、誕生日のメモ、授業のメモ
T さん	日程、週間計画

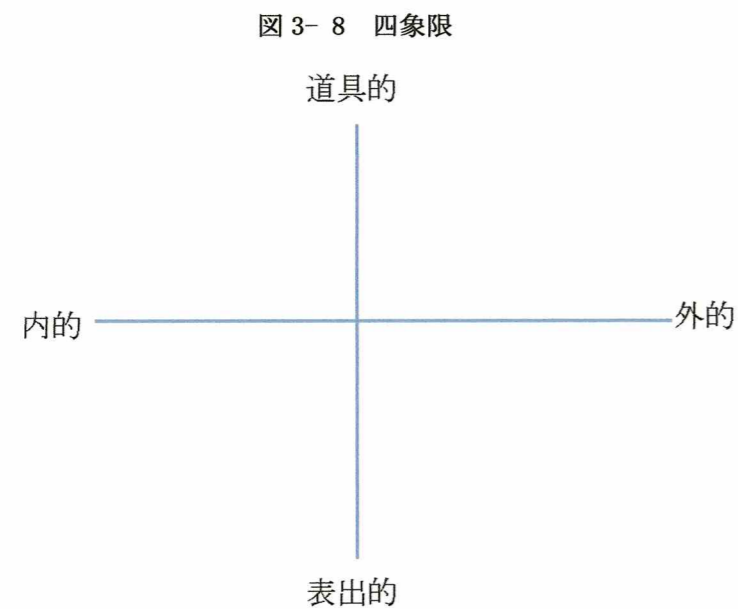
自分もまた中国人留学生の一人である。来日して半年頃から、周りの人が皆使っていたことが影響して、「百均」の手帳を購入した。最初は日程管理というよりは、手帳の最後についている西暦和暦対応表を使っていた。また東京旅行の時には地下鉄の地図も活用していた。さらに就職活動の時期は日本の就職活動の流れに慣れなかったが、就職手帳を購入し、その後ろについている就活ガイドブックも利用していた。上記の 20 人の調査対象者のデータと自分自身の経験を踏まえて、以下では、手帳の使い方を 9 カテゴリーに分類し、さらに各カテゴリーについてサブカテゴリーを配置した（図 3-7）。

図 3-7 手帳の使い方のカテゴリー

- ①印象を与える
 - a. 周りの流れに乗る
 - b. 特定の人を対象に印象操作
- ②日程
 - a. 色ペン使う
 - b. 色ペン使わない
 - c. 特殊の記号
- ③アクセサリ
 - a. 表紙
 - b. スタンプ
 - c. シール
 - d. 絵を書く
- ④日記
 - a. 備忘録
 - b. 回顧録（読み物；写真アルバムの機能）
 - c. 自分への励まし
- ⑤日程以外の情報の記録
 - a. 勉強
 - b. 趣味
 - c. 家計簿
- ⑥つぶやき（日記のサブカテゴリーとして位置づけられる可能性ある）
 - a. ストレス発散
 - b. 心境の明確化（文字化）
- ⑦自分の達成の確認（②と密接な関連がある）
 - a. 到達地点の確認（作業工程、進捗状況の作成と調整）
- ⑧未来に向けてのまなざし（④と重複する可能性ある）
 - a. 表紙に明確な目標の一言
 - b. 好きな言葉の採録
- ⑨手帳の付録の活用
 - a. 西暦和暦対応表の活用
 - b. 就活手帳のガイドブックの活用
 - c. 地下鉄の地図の活用

第6節 手帳の利用類型—4象限による分析

ここまでは調査対象者のひとりひとりの手帳の活用状況をもとに、手帳の使い方をカテゴリー化し、分類した。このデータを分析するために、船津衛（1996）と船津衛（2011）を基に、「内的コミュニケーション—外的コミュニケーション」（以下、「内的—外的」と略記）と「道具的コミュニケーション—表出的コミュニケーション」（以下、道具的—表出的と略記）の二つの軸からなる四象限を構成した（図 3-8）。船津衛によると、内的コミュニケーションとは自分自身とのコミュニケーションであり、外的コミュニケーションとは他者とのコミュニケーションである（船津 2011: 192）。各人の目的達成のための単なる手段としてのコミュニケーションはインストルメンタル・コミュニケーションであり、それ自体が意味を持つコミュニケーションはコンサーマトリーなコミュニケーションである（船津 1996: 104）。以下、前者を道具的コミュニケーションと、後者を表出的コミュニケーションと言いかえている。



まず、「①印象を与える」というカテゴリー「a. 周りの流れに乗る」は、手帳を介した他者とのコミュニケーション（外的コミュニケーション）であり、また調査対象者は明瞭に語っていないが、インタビューの内容から日本に適応するという目的が潜在的にあるということが読み取れるため、①a. は外的かつ道具的コミュニケーションと言える。「b. 特定の人を対象に印象操作」というカテゴリーは、他者とのコミュニケーションであり、また調査対象者の A さんのインタビューから分かるように、先生に真面目な印象を与えるという目的が明白に表れているため、①b. も外的かつ道具的コミュニケーションと言える。

「②日程」というカテゴリーの「b. 色ペン使わない」が他者とのコミュニケーションであるのに対し、「a. 色ペン使う」と「c. 特殊の記号」という事例は他者とのコミュニケーシ

ョンが行われていると同時に、日程を自分なりに整理するという作業が行われているという意味で、そこに自分自身とのコミュニケーションを見出すことができる。さらに日程管理をするためという点に着目するならば、②a と②c は内・外的かつ道具的コミュニケーションである。「②b. 色ペン使わない」は、他者とのコミュニケーションかつ道具的コミュニケーションと言える。

「アクセサリ」というカテゴリーの「a. 表紙」は自分の好きな表紙を選ぶことで得られる満足感以外に、他者に見せることから得られる満足感が読み取れる。そういう意味で③a. は内・外的かつ表出的コミュニケーションである。それに対し、③「b. スタンプ」、「c. シール」、「d. 絵を書く」は、調査対象者が自分自身でスタンプやシールを貼ったり、絵を書いたりすることそれ自体に満足感や価値を見出している点が読み取れる。そういう意味で、③b. ③c. ③d. は内的かつ表出的コミュニケーションである。

「④日記」というカテゴリーの「a. 備忘録」と「c. 自分への励まし」は、自分自身とのコミュニケーションであり、それぞれ「忘れないように」と「もっと頑張るように」といった目的があることから、内的かつ道具的コミュニケーションと言える。一方④の b. 「回顧録」は、「忘れないように」というよりは過去の出来ことを思い出すことそれ自体に満足感と価値を見出しているため、内的かつ表出的コミュニケーションと言える。

「⑤日程以外の情報の記録」の「a. 勉強」と「c. 家計簿」は自分自身とのコミュニケーションであり、それぞれ「知識を忘れないように」と「家計を管理するため」といった目的が主要なものとなっているため、内的かつ道具的コミュニケーションである。一方⑤の「b. 趣味」は、趣味に関するものや情報をコレクションすることそれ自体に楽しみや価値を見いだしているため、内的かつ表出的コミュニケーションと言える。

「⑥つぶやき」というカテゴリーの「a. ストレス」は自分自身とのコミュニケーションであり、手帳に書くことでストレスを解消するという目的が達成できる。インタビューを見る限り、調査対象者自身は、それを意識的に行っているわけではないが、実際にその目的が遂行されているという点で、内的かつ道具・表出的コミュニケーションと言える。⑥の「b. 心境の明確化（文字化）」は自分自身とのコミュニケーションであり、また調査対象者が心境を文字化すること自体に楽しみを見いだしているという意味で、内的かつ表出的コミュニケーションとした。

「⑦自分の達成の確認」というカテゴリーの「a. 到達地点の確認」は、自分で計画を立てるという自分自身とのコミュニケーションと、他者と相互作用を行うという他者とのコミュニケーション、またその結果を自分で立てた計画と照合し、内省と調整を行うという自分自身とのコミュニケーションが再度行われている。言うなれば、そこには、循環的なコミュニケーションが見てとれる。このカテゴリーには目標達成という目的があると同時に、調査対象者が過去を振り返ることで達成感を覚えるというその行為自体に価値を見出していることから、内・外的かつ道具・表出的コミュニケーションである。

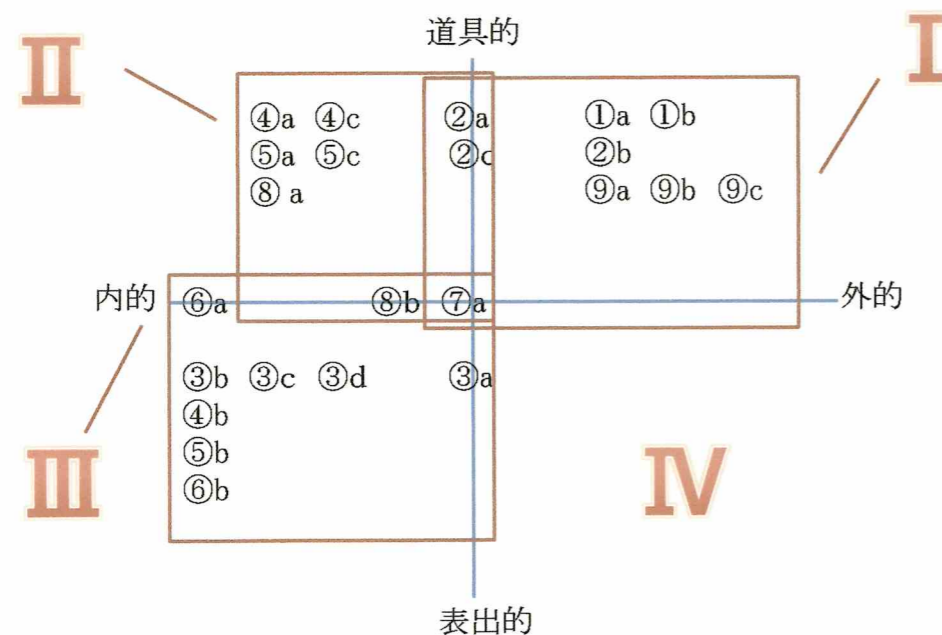
「⑧未来に向けてのまなざし」というカテゴリーの「a. 表紙に明確な目標の一言」は、自

分自身を鼓舞するためという目的を持った自分自身とのコミュニケーションである。つまり内的かつ道具的コミュニケーションである。「⑧b.好きな言葉の採録」は自分自身とのコミュニケーションであり、採録すること自体に楽しみを覚え、採録した言葉を理解することで自分自身を鼓舞しているという意味で、内的かつ道具・表出的コミュニケーションと言える。

「⑨手帳の付の活用」というカテゴリーの「a.西暦和歴対応表の活用」と「b.就活手帳のガイドブックの活用」と「c.地下鉄の地図の活用」とは、他者とのコミュニケーションであり、またそれぞれ「和歴を使用できるように」「就職活動に慣れるように」「地下鉄のシステムを分かるように」といった目的が遂行されているという意味で、外的かつ道具的コミュニケーションである。

以上の各カテゴリーの分析結果を、前述の四象限にあてはめるならば、以下のようになる(図3-9)。

図3-9 手帳の使い方を当てはめた四象限



象限Iは外的かつ道具的コミュニケーションであり、象限IIは内的かつ道具的コミュニケーションであり、象限IIIは内的かつ表出的コミュニケーションであり、象限IVは外的かつ表出的コミュニケーションである。

象限I(外的かつ道具的コミュニケーション)「①印象を与える」という手帳の使い方はやや特殊である。調査対象者の使い始めたきっかけあるいは理由という調査項目の回答によれば、多くの中国人は「周りの人が皆使っているから」手帳を使うようになった。たと

えば、第一回目の調査時点では、Tさんは「周りの人皆使っているから、使うかもしれないと思ってさ、でも結局ほとんど書く必要がなくて、頭で覚えてるの」と、手帳を毎年購入していたが、使ってはいなかった。またAさんのように指導教員に真面目な印象を与えるために実際に必要とは思っていないが、日程を手書きにした事例があった。こうした事例は使用開始のきっかけではあるが、同時に一種の使い方であるとも考えられる。こうした使い方は、調査対象者が日本社会へ適応しようとするサインとも考えられる。調査対象者の中で準拠集団が中国から日本へと変わるという変化を表している。「②日程」は調査対象者に時間感覚の変化(中国の短期計画の時間感覚から日本の長期計画の時間感覚)をもたらし、そして「⑨手帳の付録の活用」は生活習慣の変化(たとえば和歴の使用や就職活動の制度に慣れる)をもたらしている。象限II(内的かつ道具的コミュニケーション)の「④日記」の「a.備忘録」と「c.自分への励まし」と「⑧未来に向けてのまなざし」、調査対象者にやる気(上昇)の変化を与えた。また「⑤日程以外の情報の記録」のa.は調査対象者に情報獲得量(拡大)の変化を与えた。象限III(内的かつ表出的コミュニケーション)の「③アクセサリ」の「b.スタンプ」「c.シール」「d.絵を書く」は、調査対象者に新たな趣味の発生(手帳のデコレーションの趣味の開発)をもたらし、「④日記」の「b.備忘録」は調査対象者に思い出の変化(過去と自分との関係の再構成)をもたらし、そして、「⑥つぶやき」は調査対象者に情緒の変化(ネガティブからポジティブへという変化)をもたらした。完全に象限IV(外的かつ表出的コミュニケーション)だけに属している使い方はないものの、「⑦自分の達成の確認」は象限I、II、III、IVの交差する点にあり、調査対象者に時間感覚の変化(中国の短期計画の時間感覚から日本の長期計画の時間感覚)とやる気(上昇)の変化をもたらしたと考えられる。それらの変化は象限Iと象限IIが調査対象者にもたらした変化と重複する。また「③アクセサリ」の「a.表紙」は象限IIIと象限IVに属していて、調査対象者に満足を感じさせるものの、特に変化をもたらしていないと考える。ここでは、同時にいくつかの象限に属するコミュニケーションを考慮に入れないことにし、完全に一つの象限に属するコミュニケーションだけを論じることにしたい。各象限に属する使い方が調査対象者に与えた変化を簡潔に示すと、以下のようになる(図3-10)。

図3-10 手帳の使用が調査対象者に与えた変化

- I 1) 準拠集団の変化
(日本社会を準拠集団に)
- 2) 時間感覚の変化
(日本的時間感覚へ)
- 3) 生活習慣の変化
(日本の各種制度や風習に慣れる)

- II 1) やる気(上昇)の変化
- 2) 情報獲得量(拡大)の変化

- III 1) 新たな趣味の発生
(手帳のデコレーション)
- 2) 思い出の変化
(過去と自分との関係の再構成)
- 3) 情緒の変化
(ネガティブ→ポジティブ)

全ての変化は調査対象者にパーソナリティの変化をもたらしていると考えられる。そのうち、日本社会への適応につながるのは他者への意識の変化、時間感覚の変化、生活習慣の変化と情報獲得量の変化だと考えられる。

以上の分析は第一回目の調査のインタビュー結果を基に、分析した結果である。第一回目の調査は手帳の使い方を中心に行ったため、手帳を使うことで調査対象者にどのような変化をもたらしたのかについて触れていたインタビューはあったものの、そのような変化を明言した回答は少なかった。そこで手帳を使うことは中国人の日本社会への適応とその過程におけるパーソナリティの変容にどのような作用を及ぼしているかを解明したいと考え、2015年5月16日から2015年12月14日までの間に、調査対象者の8名(Bさん、Cさん、Dさん、Hさん、Jさん、Mさん、Nさん、Tさん)に追加インタビューを行った(20名の調査対象者のうち、追跡調査が可能となった8名)。以下では簡潔にこの8名の調査対象者の回答を紹介していく。

【Bさん】³⁹

日程管理において本当に助かっている。学校やアルバイト以外にも他の用事もあるから、手帳がないとうまく自分の時間管理ができないかもしれない。手帳もまた自分の生活の記録になっている。私にとっての交換留学は貴重な経験だった。その時つけていた手帳を読むことで当時のことがよみがえってくる。日本人は時間をちゃんと守るから、自分もちゃ

³⁹ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

んと「郷に入れば郷に従え」にしたから、留学生活はちょっと順調になったと思う。

【Cさん】⁴⁰

手帳は私の留学生活において、授業、アルバイト、サークルのスケジュール管理だけでなく、夢や目標、やりたいことも書きます。自分のスケジュールをしっかり管理し、時間を無駄にしないように空いている日に何をすればいいか考えるようになった。時間を守れるようになった。

【Dさん】⁴¹

手帳を使うことによって、合理的に自分の時間を管理することができた。何事をするにもぼったりならなくなった[バタバタしなくなった]。あと周りの日本人が皆手帳を使っているから、私も活用してきたということはある意味、自分は日本社会に適応できているということじゃないかな(笑)。

[筆者：手帳を使うことで日本人の考え方とか仕事のやり方とか理解するようになったという意味ですか。]そういうことです。特に時間に関して。

【Hさん】⁴²

かわいい手帳を選ぶことは楽しいし、日本に来て最初は生活習慣やルールなどの変化に不安はあったけど、手帳を使うことで自分の考えを整理することができて、その不安はちょっと和らいた。日程とか書いているうちに、生活の効率が上がった気がしてきた。

【Jさん】⁴³

手帳を使うことによって、もっと効率よく時間を使えるようになった。

【Mさん】⁴⁴

手帳を使って、大事な用事を忘れてたり、遅刻したりしなくなった。また就活手帳のおかげで、内定をもらった。

【Nさん】⁴⁵

日本は何事についてもルールにそって動く国だと思う。用事の大きさや重要さに関係なく、すべて早くから予定を立てる、細かい計画をする。そのため、日本で生活していく上で手帳は欠かせない存在だと思う。留学期間は日本人みたいに手帳を使わなければ、大事

⁴⁰ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

⁴¹ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

⁴² 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

⁴³ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

⁴⁴ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。

⁴⁵ 調査時期及び場所：2015年12月14日(インターネット経由)。